

資源管理基礎調査（種苗放流） （要 約）

菊谷尚久¹・鈴木 亮

目 的

青森県資源管理指針に掲載されている魚種のうち、ウスメバルでは陸奥湾来遊稚魚の動向と稚魚の移動分散について、マダラでは移動分散についての調査を行う。

材料と方法

1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 26 年 5 月から 6 月にかけて、青森市奥内地区及び後潟地区のホタテ養殖施設において、浮玉に海藻（アカモク）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップを設置し、トラップ浮体に蟄集する稚魚を船上からタモ網にて採集した。

2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

平成 26 年 7 月に、当研究所で中間育成した 2 歳魚のウスメバルにダートタグ標識を付して、東通村尻労沖から放流した。

3. マダラ（移動分散）

当研究所及び脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚の右腹鰭抜去により標識し、平成 26 年 6 月にむつ市脇野沢沖から放流を実施した。

結 果

1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 26 年度のウスメバル稚魚の採集尾数は、昨年度の約 1 割の 14 千尾と、平成 23 年度に次いで少ない採集尾数となった。また、採集したウスメバル稚魚の平均全長は 29.3mm であった。

2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

平成 24 年度に採集し当研究所内で中間育成した 124mm サイズのウスメバル 2 歳魚を、平成 26 年 7 月 18 日に、1,300 尾（内標識魚 267 尾：ダートタグ、黄色アオスイ 253～500）尻労前沖に放流した。

3. マダラ（移動分散）

当研究所及び脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚について、平成 26 年 6 月 18、19 日に 8,575 尾に標識し、脇野沢前沖より放流した。

¹ 地方独立行政法人青森県産業技術センター本部

発表誌：平成 26 年度青森県資源管理基礎調査結果報告書、青森県産業技術センター水産総合研究所、平成 27 年 3 月